



青春18きっぷとシルバーパス

きょうよう（今日用事がある）と、きょういく（今日行くところがある）のための交通費がバカにならない。近距離移動でも、月 16,000 円～18,000 円を費やしている。交通費節約のため、できるだけ安いルート、京王線の回数券、トクトクきっぷを活用しているが、さらに節約するために、**青春18きっぷ** と **東京都シルバーパス** の利用を考えた。

速いよりも、少々遠回りでも、安いを優先する。バスや都営地下鉄を使う。

青春18きっぷは、11,850 円で5回利用できる。1日・1回 2,370 円で、JR普通電車でもどこまでも行ける。これを夫婦で静岡へのお彼岸の墓参り、富岡製糸場への観光旅行、善光寺へのお参りに利用した。結果、新幹線や本来のルートを利用するより1/4の費用で済んだ。

一方、シルバーパスは、年間 20,510 円（1,709 円/月）で、バスと都営地下鉄が自由に使える。

この4月だけでも6,500 円の節減ができた。相当の費用メリットよりも、新幹線、飛行機、車などの移動で、のんびり、ゆっくりでき、夫婦で会話をしたり、物事をじっくり観察したり、考えたり、気づいたりする余裕ができた。

そこで、この旅で妻と夫といっぱい（18）交わした会話をご披露する。



「青春18きっぷ」の名前の由来

妻 「何で『青春18きっぷ』と言うんだろうね？」

夫 「青春に戻って、いっぱい（18）乗ってほしいという願いが込められているんだよ。だから、いっぱい（18）話しながら、目一杯（18）楽しもうよ。」

（瀧蓄）発売されたのは、1982（S57）年3月。最初は『青春18のびのびきっぷ』といていた。

彼岸（あの世）

妻 「あの世というけど、死後の世界はあるの？」

妻 「冥途はどこにあるの？」

夫 「あるよ。目をつぶって、数を数えてごらん」

夫 「日本だよ」

妻 「1・2・3・4・5・・・」

妻 「どうして？」

夫 「ほら、4・5（死後）があったろ！」

夫 「冥途 in Japan・・・？」

三途の川

妻 「彼岸（あの世）と此岸（現世）の間に流れている川は、なぜ三途の川というの？」

夫 「この川を渡る方法に、三つの途（みち）があるからだよ。

一つは、金銀七宝で造られた橋を渡る。室町時代以降からは船に乗って渡るようになった。二つは、水が膝の下までの浅瀬を渡る。三つは、川の流れが速く、波が高く、川底に大蛇が潜んでいる深瀬を渡る。あなたは、どの途（みち）を行くの？」



妻 「三途の川の川幅と水深はどのくらい？」

夫 「川幅596m、水深1m。極楽(=596)で一命とる(=1m)・・・？」

(蓋蓄) 川を渡るための舟賃は六文銭(180円~300円)がいると言われている。六文銭は六道銭とも言われ、仏教において地獄(道)・餓鬼(道)・畜生(道)・修羅(道)・人間(道)・天(道)の6つの世界(道)の六道銭からきています。「死者に六道の数にあった銭を持たせれば清く成仏できる」という考え方に発展し、「六道銭」ができたようです。

牡丹餅

妻 「春の彼岸に食べるのは『牡丹餅』というが、秋は『お萩』と言うのはどうして？」

夫 「春に咲く牡丹の花に見立て、秋は萩の花に見立てたからだよ。それから、夏は『夜船』冬は『北窓』というんだが、どうしてか知っている？」

妻 「知らない・・・」

夫 「ぼたもちは、普通のもちのように『ペタン、ペタン』と音を出さずに作るので、隣に住む人には、いつ搗(つ)いたのか分からない。そこで『搗き知らず』→『着き知らず』(夜は暗くて船がいつ着いたのか分からないことから)→『月知らず』(月を知らない、つまり月が見えないのは北側の窓だということから)なんだ」

(蓋蓄) 牡丹は大きくて丸い花だから『ぼたもち』は大きめで丸い形に、萩は小さくてやや細長い花だから『おはぎ』は小ぶりで俵の形に作る。牡丹餅はこしあん、お萩は粒あん。また、小豆あんを『ぼたもち』、きな粉を『おはぎ』、米粒が残らない餅状につぶしたもの(俗称:皆殺し)を『ぼたもち』、米粒が残ったもの(俗称:半殺し)を『おはぎ』と呼ぶなど様々な説がある。

世界文化遺産・富岡製糸場

妻 「ここで働いていた女工さん達はどうしたの？」

夫 「きっと、カイコ(解雇・蚕)になったでしょう」

妻 「そのあとはどうしたの？」

夫 「八王子に行って、絹織物・ネクタイを作っているんだよ。そして、私達を首にした男の首を絞めているんだよ」

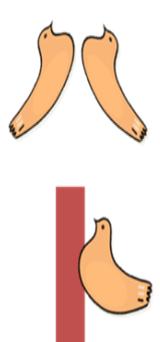
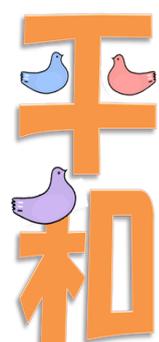


明治五年

御開帳・善光寺(7年に一度の前立本尊 御開帳にお参り)

妻 「山門に掲げてある額の『善光寺』の文字の中に鳩がら羽隠れているんだって」

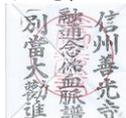
夫 「あっ、本当だ! 気づかなかった。へえー、ハトリックだね」



(蓋蓄) 山門に掲げられている善光寺の額は、通称「鳩字の額」と言われています。これ以外にも、鎌倉の鶴岡八幡宮の隨身門、石清水八幡宮(京都府・八幡市)の鳥居の額にも鳩が隠されています。また、「善」の一字が牛の顔に見えろと言われ、「牛に引かれて善光寺参り」を表しているとされます。

善光寺で購入してきたお血脈

(10cm四方ほどの大きさの紙で包まれたもの。中にお釈迦様からその弟子たちが連綿と書かれた系図がある。最後に自分の名前が書かれ、血の流れのようにつながっている)



お釈迦様と阿弥陀様が合体し、閻浮壇金(えんぶだごん・白金のようなもの)の1寸8分(5.45cm)の仏体(阿弥陀如来)になった。これを信濃国国司・本田善光が背負って、ここに持ってきて、お堂を建て祀った。善光の名を取って、善光寺と名前が付いた。

ここには、錦の袋に入ったお血脈(おけちみゃく)の御印を額に押しもらえる。押しもらうと、どんな大罪を犯していても罪障消滅して極楽へ行けるといわれる。

落語「お血脈」より